

富士見台小だより 学校評価号

2026(令和8)年3月
藤沢市立富士見台小学校
校長 小林美奈子



えがお かがやき ありがとう

☆学校評価（アンケート）について

今年度も、3～6年生の児童と保護者、学校運営協議会委員を対象に学校評価アンケート（子どもたち用は学校生活アンケート）を実施いたしました。ご回答いただきありがとうございました。

本調査は、個々の経年変化を追うものではなく、今年度の子どもたちの姿をありのままに捉えるためのものです。担任の交代や発達段階の違いも考慮しつつ、結果を真摯に受け止め、次年度の教育活動に生かしてまいります。それらを踏まえて、結果や考察をお読みください。よろしくお願いいたします。

◎子どもたち用アンケートについて

高学年（5・6年生）用のアンケートです。中学年（3・4年生）には、質問11を除いた11項目で行いました。回答は、Aとても思う・B思う・Cあまり思わない・D思わないの4段階で、AとBは肯定的な回答、CとDは肯定的ではない回答ととらえました。設問は12項目です。

○結果と考察

【1 学校生活は楽しい】

中学年で88.9%、高学年で92.2%の子どもたちが肯定的な回答をしています。行事や日々の活動に満足している様子が伺えます。今後も「明日も行きたい」と思える学校づくりを継続します。

【2 授業は、わかりやすい】

中学年で94.2%、高学年で91.3%の子どもたちが肯定的な回答をしています。高学年は学習が難しくなり、自分で考える活動も増えるため、一人一人に寄り添った指導を強化していきます。

【3 学校では、「総合的な学習の時間」を中心に多くのことをみたり・聞いたり・体験したりできる】

中学年で85.9%、高学年で88.5%の子どもたちが肯定的な回答をしています。今年も地域と関わり、体験したことに対して肯定的な評価が表れました。今後も実体験に触れる機会を大切にしていきます。

【4 自分から進んで家庭学習（宿題や教科書の本読み、読書を含む）をしている】

中学年で87.9%、高学年で64.4%の子どもが肯定的な回答をしています。中学年は、自主学習など、子どもたちが主体的に取り組んでいる様子が結果として出ています。一方で高学年は少し低い結果となりました。高学年では内容が高度化し、自学自習の難しさを感じている様子が見て取れます。単に『やりなさい』ではなく、家庭での学びが学校の授業にどう繋がるか、その『面白さ』を実感できるような動機付けを工夫してまいります。

【5 あなたは、みんなとなかよくすごすことができますか】

中学年で93.2%、高学年で91.3%の子どもたちが肯定的な回答をしています。昨年に引き続き高い傾向が伺えます。今後も道徳や日々の学級活動等を通じて相手のことを考え行動することや、仲良く過ごすことができるよう努めます。

【6 なりたい自分にむかい、めあてをもって学校生活を送っている】

中学年で87.3%、高学年で74.5%の子どもたちが肯定的な回答をしています。自己肯定感を高められるよう指導を続けています。今後も引き続き、きめ細やかなサポートをしていきます。

【7 学校では、学校やクラスのルールを学ぶことができる】

中学年で95.5%、高学年で93.7%の子どもたちが肯定的な回答をしています。日頃から学校のきまりごとについて、子どもたちと一緒に考える機会を設けている成果と考えられます。

【8 困りごとや不安があるときに先生や学校にいる大人にいつでも相談できる】

中学年で76.0%、高学年で69.8%の子どもたちが肯定的な回答をしています。子どもたちがいつでも担任・学年・児童支援担当などに相談できる環境づくりを進めています。高学年では教科担任制の導入により、多くの教員と接する機会が増えた一方で、特定の担任とじっくり話す時間が相対的に減っているという課題も見えてきました。『どの先生に言っても大丈夫』というチーム体制をより強固にし、子どもたちが孤独を感じない環境を整えます。

【9 学校で安全に過ごすことができますか】

中学年で95.1%、高学年で91.7%の子どもたちが肯定的な回答をしています。日頃から安全指導に努めている成果だと考えられます。

【10 学校の行事（運動会・遠足など）は楽しい】

中学年で98.2%、高学年で94.0%の子どもたちが肯定的な回答をしています。主体的に参加することで、自分たちで創り上げる達成感を味わったことが大きな自信につながっていると考えられます。

【11 委員会や代表委員会等の活動に進んで取り組んでいる】

高学年の89.5%の子どもたちが肯定的な回答をしています。子どもたちが学校自治に積極的に参加している成果だと考えられます。もっと積極的に活動できるようこれからも努めていきます。

【12 調べたり意見交換をしたり発表したりする場面でICT機器（タブレット等）を使うことができる】

中学年で89.7%、高学年で91.8%の子どもたちが肯定的な回答をしています。高学年は、学習用端末の使用にも慣れてきています。今や学習用具の一つとして定着しつつあります。今後も効果的な活用を進めていきます。

◎保護者アンケートについて

回答はAとても思う、B思う、Cあまり思わない、D思わない、の4段階評価です。AとBは肯定的な回答、CとDは肯定的ではない回答ととらえました。設問は13項目です。

○結果と考察

【1 子どもは、楽しく学校に通っている】

中学年で92%、高学年で96.9%の保護者が肯定的な回答をしています。今後ご家庭で子どもたちの話を聞いてください。

【2 学校は、わかりやすい授業をめざして努力している】

中学年で96%、高学年で88.3%の保護者が肯定的な回答をしています。これからも教職員一同、わかりやすい授業を目指していきます。

【3 学校は、教育の目標や指針を学校だよりなどでわかりやすく伝えている】

中学年で90.5%、高学年で92.6%の保護者が肯定的な回答をしています。今後も学校だよりや懇談会等で、わかりやすく伝えられるよう発信方法や発信内容の工夫をしていきます。

【4 お子さんは、自分から進んで家庭学習（宿題や教科書の本読み、読書を含む）に取り組んでいる】

中学年で68%、高学年で54.7%の保護者が肯定的な回答をしています。子ども自身の肯定感に対し、保護者から見た評価が低めに出る傾向がありました。これは『もっと頑張ってもらいたい』という期待の表れとも受け止めています。学校での頑張りを具体的に伝え、ご家庭と歩調を合わせて励ましていければと思います。今後ご協力をお願いします。

【5 お子さんは、目標に向かって努力する姿が見られる】

中学年で83.6%、高学年で67.4%の保護者が肯定的な回答をしています。今後ご家庭と協力して子どもたちの自己肯定感を養っていきたいと思います。

【6 お子さんは、家族や友達に優しい言葉を言ったり、助けたりしている】

中学年で93.6%、高学年で83.2%の保護者が肯定的な回答をしています。今後も富士見台小学校の子どもたちが優しく健やかに成長できるように努めていきます。

【7 学校は、地域の人々や施設と関わる教育活動を行っている】

中学年で87.3%、高学年で74.7%の保護者が肯定的な回答をしています。学校運営協議会も4年目を迎えました。学校運営協議会の委員の皆さまが学校と地域の方々をつなげ、本校の多くの教育活動にご協力いただいています。今後も地域の方々の協力を得て、豊かな体験活動の充実を図ります。また、その様子は、学校だより、学年だより等で発信していきます。

【8 学校は、学習の状況を“通知表”などにより適切に評価している】

中学年で83.2%、高学年で80%の保護者が肯定的な回答をしています。昨年度より、通知表の所見を3学期のみとし、1学期、2学期は面談という形でよりわかりやすくお子様の状況を説明するよう努めています。

【9 学校は、子どものことについて面談等で保護者の相談に応じている】

中学年で93.6%、高学年で92.7%の保護者が肯定的な回答をしています。必要に応じて、随時面談を行っています。お困りのことや相談がある場合は、いつでもお声がけください。

【10 学校では、いじめのない学校づくりに取り組んでいる】

中学年で84.9%、高学年で84.9%の保護者が肯定的な回答をしています。これからも「いじめ」については、未然防止と早期発見・早期対応を心がけ、安心安全な富士見台小学校を教職員全員でつくっていかねばならないと考えます。児童支援部を中心にチームで取り組んでいきます。

【11 学校は、避難訓練や交通安全教室などを通して、児童が安全に過ごせるよう取り組んでいる】

中学年で97.6%、高学年で89.5%の保護者が肯定的な回答をしています。交通安全教室、避難訓練だけでなく、一人一人が危機回避をする方法などを学ぶ日常的な安全教育の充実も必要だと感じ、日々指導を行っています。

【12 学校は、学校・学年だより、ホームページなどを使って情報の発信に努めている】

中学年で89.7%、高学年で86.3%の保護者が肯定的な回答をしています。学校から発信しているいろいろな情報を見ていただけていると捉えています。

【13 学校は、ICTを活用した学習活動の充実に努めている】

中学年で61.9%、高学年で73.7%の保護者が肯定的な回答をしています。子どもたちの発達段階に合わせて、ICTを活用した授業づくりに取り組んでいます。今後も、どのような学習場面で用いると効果的なのか見極め、子どもたちの学習活動の充実につながるよう努めます。

◎学校運営協議会委員のみなさまより

8名の学校運営協議会のみなさまにも、アンケートに答えていただきました。アンケート結果を基に、次のようにまとめ、お示しました。

1. 「チーム富士見台」としての組織力の結実

教職員が学級の枠を超えて連携し、ICTの活用や環境づくりにおいて創意工夫を重ねる姿を認めていただきました。何より、校長・教頭をはじめ全教職員が児童一人ひとりの顔と名前を一致させ、「学校全体で子どもを見守る」体制が機能していることに強い信頼を寄せていただいたことは、私たちの大きな誇りです。

2. 地域と双方向に響き合う教育活動

「長後音頭」の復活や、地域行事への積極的な参画、企業との連携など、本年度は学校が地域へ踏み出し、地域がそれに応えるという「双方向の熱量」が過去最高に高まった一年でした。「学校の熱意に地域も応えたい」というお言葉は、学校経営における最大の成果と言えます。

3. 「社会性」と「安心感」の定着

校内に響く自然な挨拶、授業で見せる真剣な眼差し、そして行事での規律ある行動。これらは、日々の丁寧な指導が児童の「社会性」として結実している証です。子どもたちが「心の居場所」として学校を感じ、自分の考えを言葉にできるようになった姿を共有できたことは、富士見台小学校の教育課程が正しく機能している証です。

一方で、PTA活動の変容に伴う「児童の安全確保」や、多様な背景を持つ児童への「継続的な個別支援」など、学校・家庭・地域が手を取り合って解決すべき新たな課題も明確になりました。いただいたアドバイスをもとに、次年度も「えがお・かがやき・ありがとう」が溢れる学校づくりを止めることなく進めてまいります。

◎まとめとして

今回のアンケート結果からは、子どもたちが学校生活を楽しみ、行事やICT活用を通して「主体的に取り組む姿」が明確になりました。一方で、高学年における学習への向き合い方や、相談体制への課題も浮き上がっています。これらは、子どもたちが成長の階段を登り、より複雑な人間関係や学習内容に直面している証でもあります。

本校では今年度、校内研究の主題を「自ら考え行動する児童の育成 ～多様性を生かした学び合い活動を通して～」に据え、国語科を中心に、自分の考えを言葉にし、仲間の異なる意見を尊重しながら最適解を見つけ出す授業づくりに励んでまいりました。

私たちが生きる現代は、先行きが不透明で予測困難な「VUCA（ブーカ）の時代」と言われています。正解のない問いに対し、周囲と対話し、納得解を導き出し、自らアクションを起こす力こそが、子どもたちが未来をつくる土台となります。アンケートで示された「行事での達成感」や「地域との双方向の交流」は、まさにその力が育っている確かな手応えです。今後も、変化を恐れず、多様な価値観の中で「なりたいたい自分」を描ける子どもたちを、学校・家庭・地域の「チーム富士見台」で育てていきたいと考えます。次年度も、「えがお・かがやき・ありがとう」が溢れる学校づくりに全力を尽くしてまいります。引き続きのご理解とご協力を、心よりお願い申し上げます。